

産業サイバーセキュリティ研究会WG1
『第3層:サイバー空間におけるつながり』の
信頼性確保に向けたセキュリティ対策検討タスクフォース
(第6回) 議事要旨

1. 日時・場所

日時: 令和4年3月17日(木) 13時30分～14時32分

場所: オンライン開催

2. 出席者

委員: 岡村委員(座長)、池田委員、井原委員、菊池委員、黒田委員、坂下委員、島岡委員、
中谷委員、永宮委員、満塩委員、峰委員、矢野委員

オブザーバ: 内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター、警察庁、金融庁、総務省、
厚生労働省、防衛装備庁

経済産業省: 大臣官房 江口サイバーセキュリティ・情報化審議官、
奥田サイバーセキュリティ課長

3. 配付資料

- ・ 資料1 議事次第・配布資料一覧
- ・ 資料2 委員名簿
- ・ 資料3 『第3層:サイバー空間におけるつながり』の信頼性確保に向けたセキュリティ対策検討タスクフォースの検討の方向性
- ・ 資料4 データマネジメントフレームワーク案
- ・ 資料5 パブリックコメントで寄せられた御意見に対する考え方(案)

4. 議事内容

事務局から資料3に基づいて説明した後、以下のとおり自由討議を行った。
委員からの意見は以下のとおり。

●パブリックコメントへの対応

- ・ 対応方向性について意見なし。

●フレームワークの名称について

- ・ 案③、「協動的/Collaborative」や「トラスト/Trust」といったキーワードも入っており良いのではないかと。
- ・ 主題と副題で「信頼」の単語が重なっているため、「協動的なデータ利活用に向けたデータマネジメント・フレームワーク ～データによる価値創造の信頼性確保に向けた新たなアプローチ」としてはどうか。
- ・ 最終的な目標は価値の創造であることから、案③の主題から「信頼(with trust)」はなくても良いかと思う。

(結論)

- ・ 案③をもとに、フレームワークの名称を以下とする。

(日本語)

協動的なデータ利活用に向けたデータマネジメント・フレームワーク
～データによる価値創造の信頼性確保に向けた新たなアプローチ

(英語)

Data Management Framework for Collaborative Data Utilization

- A New Approach toward an Establishment of Trust in a Data-Driven Value Creation

●来年度の取組(案)、フレームワークの適用・応用

- ・ 今後の方向性として行政を扱う点には賛成である。事例なしに理解をすることは企業としては難しいだろうと思う。まずは行政分野で実践を行い、その成果をフィードバック・発信していくのが良いのではないか。
- ・ 行政を主体として進めることは大変良い。包括的データ戦略のプラットフォームの整備で重点的に取り組むべき分野にある教育、介護・防災などは基礎自治体である市区町村を巻き込まないとできないものだが、その自治体が自身の個人情報保護条例などで制約され、自由なデータの利活用が進んでいない。このような自治体をうまく巻き込んでケーススタディができると良いのではないか。
- ・ 今後の適用先としての自治体だが、令和3年 改正個人情報保護法の施行が1年後に控える中、新たな業務を実施する余裕がないところが多いのではないか。

お問合せ先

商務情報政策局 サイバーセキュリティ課

電話:03-3501-1253